

Setting Up the PDS

2004 Spring Edition

PDS 7.2 on Windows XP Professional

2004-02-27

Windows XP (英語版/日本語版)	Professional
Windows XP Service Pack	1a
Adobe Reader	6.0
MicroStation/J (英語版)	07.01.04.16
IPLOT Client	10.02
Oracle9i Client	9.2.0.1.0
RIS Client	05.07.00.00
NTBATCH	05.00.00.25
PD_LICE	7.2.0/7.2.1/7.2.2
PDS3D	7.2
PD_ISOGEN	7.2
PDS2D	7.0
SDNF Import	3.0
SmartPlant Review	5.0
SPR Publisher	5.0
SmartSketch (英語版)	4.0
Pelican Forge SupportModeler	7.2.3

1 Windows XP のインストール

Windows XP Professional 本体をインストールする。なお、Windows XP がマシンにプリインストールされている場合や、マシン付属のリカバリ CD を使用する場合等には、手順が異なることがある。

1-1 地域の設定(Windows XP 日本語版のみ)

Windows XP 日本語版の場合、“地域と言語のオプション”の“カスタマイズ”ボタンを選択し、“地域オプション”タブの“標準と形式”で使う言語を“英語 (米国)”に設定する。

1-2 ネットワークの設定

“ Custom Settings (カスタム設定) ”により、ネットワークの設定を行う。

1-3 ワークグループまたはドメイン名の設定

“ Workgroup or Computer Domain (ワークグループまたはドメイン名) ”ダイアログで、ワークグループ又はドメインを選択し、参加するワークグループ名あるいはドメイン名を設定する。

2 Windows XP の設定

Windows XP 本体のインストール終了後、以下の設定を行う。

2-1 作業用アカウントの作成(ワークグループ設定時のみ)

“ Who will use this computer? (このコンピュータを使うユーザーを設定してください)” ダイアログで、一時的な作業用のアカウントを作成する。

2-2 ログオン方法の変更(ワークグループ設定時のみ)

ログオン後、“ Control Panel (コントロールパネル)” 内の “ User Accounts (ユーザアカウント)” を選択して “ Change the way users log on or off (ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する)” の中の “ Use the Welcome screen (ようこそ画面を使用する)” オプションを OFF にした後、ログオフする。

2-3 Num Lock の設定

Administrator としてログオンし、キーボードの Num Lock を ON にする。

2-4 Service Pack 1a のインストール

Windows XP Service Pack 1a のインストールを行う。

2-5 パーティションのフォーマット

C:ドライブ以外に D:等のパーティションを作成した場合はフォーマットを行う。

2-6 ドライバのインストール

グラフィック、マウス等のドライバをインストールする。

2-7 Windows Explorer の設定

Windows Explorer を起動し、“ Folder Options (フォルダオプション)” の “ View (表示)” タブで “ Use simple file sharing (簡易ファイルの共有を使用する)” オプションを OFF にする。

2-8 Show window contents... (ドラッグ中に...)オプションの設定

“ Display Properties (プロパティ)” を表示し、“ Appearance (デザイン)” タブの “ Effects (効果)” ボタンを選択し、“ Show window contents while dragging (ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する)” オプションを OFF にする。

2-9 Event Viewer (イベントビューア)の設定

“ My Computer (マイ コンピュータ)” アイコンをマウス右ボタンで表示されるメニュー

から “ **Manage (管理)** ” を選択し、 “ **System Tools (システムツール)** ” “ **Event Viewer (イベントビューア)** ” 内で各ログの “ **When maximum log size is reached (ログサイズが最大値に達したときの動作)** ” を “ **Overwrite Events as Needed (必要に応じてイベントを上書きする)** ” に設定する。

2-10 Internet Explorer (インターネットエクスプローラ) の設定

インターネット接続方法(プロキシ等)の設定を行う。また、 “ **Use HTTP 1.1 through proxy connections (プロキシ接続で HTTP 1.1 を使用する)** ” オプションを ON にする。

3 ソフトウェアインストール前の設定

アプリケーションソフトウェアをインストールする前に、以下の設定を行う。

3-1 レジストリ DisableUNCCheck の追加

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Command Processor に対して、以下の DWORD 値を追加する。

DisableUNCCheck: REG_DWORD: 0x1

3-2 レジストリ winreg の削除

以下のキーを削除する。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\
CurrentControlSet\Control\SecurepipeServers\winreg

3-3 レジストリ DisableDHCPMediaSense の追加

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters に対して、以下の DWORD 値を追加する。

DisableDHCPMediaSense: REG_DWORD: 0x1

3-4 レジストリ Intergraph の追加

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE に対して、以下のキーを追加する。

Intergraph: クラス指定なし

3-5 レジストリ Intergraph の Permissions (アクセス許可)の設定

上記で作成した Intergraph キーに対して、Everyone – Full Control (フルコントロール) の Permissions (アクセス許可)を設定する。

3-6 レジストリ Common の追加

上記で作成した Intergraph キーに対して、以下の文字列値を追加する。

Common: REG_SZ: C:\WIN32APP\INGR\SHARE

3-7 環境変数 TEMP/TMP の設定

C:\TEMP フォルダを作成し、Everyone – Full Control (フルコントロール)の Permissions (アクセス許可)を設定する。Administrator のユーザー環境変数 TEMP および TMP を削除し、システム環境変数 TEMP および TMP に対して、以下の値を設定する。

%SystemDrive%\TEMP

3-8 マシンの再起動

マシンを再起動する。

4 アプリケーションソフトウェアのインストール

各アプリケーションソフトウェアは、以下の順序でインストールを行う。

- 1) Adobe Reader
- 2) MicroStation/J
- 3) IPLOT Client
- 4) Oracle Clinet (MDP 等に関連して Oracle との接続を行う場合)
- 5) RISSHARE
- 6) NTBATCH
- 7) PD_LICE
- 8) PDS3D
- 9) PD_ISOGEN (ISOGEN 処理を行うマシンの場合)
- 10) PDS2D (PDS2D 機能を利用する場合)
- 11) その他のアプリケーション

4-1 Adobe Reader

デフォルトの設定でインストールを行う。

4-2 MicroStation

Typical または **Complete** により、MicroStation/J のインストールを行う。

4-3 IPLOT Client

IPLOT Client のインストールを行う。

4-4 Oracle Client

MDP (Material Data Publisher)等に関連して Oracle9i Client のインストールを行う場合、以下の手順を使用する。

“ Oracle9i Client 9.2.0.1.0 ”, “ Custom ”を選択する。以下のように“ Oracle Network Utilities 9.2.0.1.0 ” をインストールする。

- Oracle9i Client 9.2.0.1.0
 - Oracle Enterprise Manager Products 9.2.0.1.0
 - Oracle Network Utilities 9.2.0.1.0
 - Oracle Database Utilities 9.2.0.1.0
 - Oracle Java Utilities 9.2.0.1.0
 - SQL*Plus 9.2.0.1.0
 - ...
 - ...

Java Runtime Environment のインストール先を以下のように変更する。

D:\Oracle\jre\1.1.8

Create Database に対して **No** を選択する。

Perform typical configuration オプションとして **OFF** を選択する。

Directory Usage Configuration ダイアログボックスで **No** を選択する。

Oracle Net Listener の設定を行う。

Naming Methods Configuration ダイアログボックスに対して **No** を選択する。

Oracle ソフトウェアのインストール終了後、**D:\Oracle\Ora92** フォルダに対して **Everyone – Full Control (フルコントロール)**のパーミッションを追加する。

4-5 RISSHARE

PDS マシン/ISOGEN マシンに対して、PDS 7.2 の CD に含まれる risshare フォルダから、RIS Client のインストールを行う。Setup Type として **Typical** を選択する。

4-6 NTBATCH

インストール先フォルダを **C:\WIN32APP\INGR\NTBATCH** に設定する。

Do you want jobs to have access to the desktop? に対し **Yes**、

Do you want to run all job as the same user? に対し **No** を選択する。

4-7 PD_LICE

Pelican Forge SupportModeler 7.2.3 または SmartPlant P&ID 4.0 を使用する場合には、Intergraph/MUTOH の技術サポート Web から PD_LICE 07.02.02.00 をダウンロードしてインストールを行う。

4-8 PDS3D

PDS3D の各モジュールをインストールする。上記で PD_LICE 07.02.02.00 のインストールを行った場合には、PD_LICE モジュール(07.02.00.15)は選択しない。

4-9 PD_ISOGEN

ISOGEN の処理を行うマシンでは、上記の PDS3D のインストールを行った後、PD_ISOGEN のインストールを行う。PD_LICE 07.02.02.00 のインストールを行った場合には、PD_LICE モジュール(07.02.00.15)は選択しない。

4-10 PDS2D

PDS2D を利用する場合には、Intergraph/MUTOH の技術サポート Web から Version 07.00.00.18 をダウンロードしてインストールを行う。

4-11 その他

各マシンの構成に合わせて、SDNF Import, SmartPlant Review, SPR Publisher, SmartSketch, Pelican Forge SupportModeler 等のソフトウェアをインストールする。

4-12 マシンの再起動

全てのソフトウェアをインストールした後、マシンの再起動を行う。

5 ソフトウェアインストール後の設定

全てのアプリケーションソフトウェアをインストールした後、以下の設定を行う。

5-1 環境変数 NQS_job の定義

PDS2D をインストールしている場合は、以下のようにシステム環境変数を定義する。

```
NQS_job = 1
```

5-2 環境変数 Path の設定

環境変数 **Path** の定義に、空白文字を含むフォルダ名や、ダブルクォーテーションマーク (") が含まれていれば削除する。

5-3 RIS の設定

Windows XP 日本語版では、RIS で使用する言語を **English** に設定しておく必要がある。

C:\win32app\ingr\share\ris05.07\config\langs ファイルを以下のように編集する。

(編集前)

```
3 |japanese          |japanese    |0x0411|932|Japanese
```

(編集後)

```
3 |english           |english     |0x0411|932|Japanese
```

5-4 PDS Queue の作成

PDS Queue を起動し、**Batch Queue** を作成する。ISOGEN のバッチ処理を他のマシンで実行する場合には、**PD_ISO** 関連の **Queue** を **Pipe Queue** とする。各 **Queue** の **Properties** の **Disable Job Inflow while Running Job** オプションが **ON** になる不具合に対応するため、**PDS Queue** を再度起動し、**Enable all for configuration** オプションにより各 **Queue** の再作成を行う。

5-5 NTBATCH の Account Mapping

Batch Manager を起動し、** = **ドメイン名\Administrator** のように **Account Mapping** の定義を行う。

5-6 Bentley ライセンス

MicroStation, IPLOT 等のライセンスが発行されている場合にはインストールを行う。

5-7 PDS ライセンス

ライセンスサーバの登録(`pdlice -j`)を行う。

5-8 SetFormScale

デュアルモニタのマシンで PDS2D をインストールしている場合は、**PDS 2D Tools** の **SetFormScale** により、**Form Scale Factors** を **X = 0.5, Y = 0.5** に設定する。

5-9 FWP Envelope Builder の更新

FWP 用 Envelope Builder プログラムの更新を行う。**Command Prompt (コマンドプロンプト)**上で **C:\win32appl\ingr\fwplus\bin** ディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行する。

```
clashupd c:\win32appl\ingr\pdclash\bin
```

5-10 ユーザープロファイルのコピー

Administrator とは別の管理者アカウントでログオンする。“**My Computer (マイコンピュータ)**”の“**Properties (プロパティ)**”を表示し、“**User Profiles (ユーザープロファイル)**”タブを選択する。**Administrator** のプロファイルを選択して“**Copy To (コピー先)**”ボタンを選択する。**C:\Documents and Settings\Default User** をコピー先として指定し、“**Permitted to use (使用を許可するユーザー/グループ)**”に **Everyone** を指定する。

5-11 マシンの再起動

全ての設定作業を行った後、動作確認を開始する前にマシンの再起動を行う。